

季刊

医大

おらんくの大学病院

[高知大学医学部附属病院]

[Vol.16]

2022年  12月20日

発行



特集 Long Interview

感染対策は「医療機関毎」から「地域連携」の新時代へ。
まだ見ぬ感染症から医療従事者を守る
「全身防護服着脱訓練」の重要性!



進化し続ける網膜診療

眼科学講座 教授 山城 健児

●おらんくの食事

栄養管理部から「冬」のおすすめ料理

●医大のスタッフ

集中治療部 冬のイベント案内



当院は他の医療機関に対し、必要時に院内感染対策に関する助言を行うことができ、新興感染症の発生時には、都道府県等の要請を受けて感染症患者の受け入れを実施できる体制を有しています。

高知大学医学部附属病院では、厚生労働省が新たに定めた新興感染症等の発生を想定した訓練が行われているとお聞きしましたが、今日はこのことについて詳しく伺いたいと思います。

山岸▶はい。新興感染症(Emerging Infectious Diseases)とは、この20年間の間に新たに認識された感染症で、局地的にあるいは国際的に公衆衛生上の問題となる感染症です。

例えば、現在世界的に蔓延している新型コロナウイルス感染症もそうですし、20年ほど前にアジア圏から拡大したSARSや鳥インフルエンザ、ほかにもエボラ出血熱、

感染管理部長
山岸 由佳
やまぎし ゆか



感染対策は「医療機関毎」から「地域連携」の新時代へ。 まだ見ぬ感染症から医療従事者を守る「全身防護服着脱訓練」の重要性！

長引くコロナ禍の今年4月、厚生労働省は「地域で連携し、面として感染症対策を行う」ことを目的に、診療報酬の改定を実施し、その新たな枠組みの中で、高知大学医学部附属病院は「組織的な感染防止対策の基幹的な役割」を担っている。今回は、保健所、地域の医師会と連携して開催した「新興感染症発生想定訓練」に密着し、当院感染管理部の山岸部長と秋山副部長に話を聞いた。



ラッサ熱、後天性免疫不全症候群(HIV)など現在16の感染症が、新興感染症として認知されています。

先月(11月25日)、本校体育館にて「全身防護服着脱訓練」が山岸部長指導の下、医療従事者を対象に実施されましたが、その経緯を教えてください。

山岸▶令和4年の診療報酬改定で、新興感染症等に対応できる医療提供体制の構築に向けた評価が新項目として追加されました。組織的な感染防止対策につき、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして、地方厚生局長等に届け出た保険医療機関は年に一度、この訓練に参加することが義務化されるというものです。そこで当院は、新興感染症の対策の一つとして、「全身を覆う防護服を着たり脱いだりする訓練」を企画しました。地域の医師会や、保険医療機関に参加を呼びかけ、今回は高知県内24施設から35名の方々にご参加いただきました。

新興感染症が発生した際には組織的な対応が必要となりますが今回はそのきっかけとして最初の訓練となりました。

秋山副部長の解説で、西山医師がモデルとなって防護服(具)の着脱をされていましたが、同時に着脱のサポートにあたる介助者まで専用着が必要なことなど、こちらまで緊張感が伝わるほどでした。着脱手順、密閉性など細心の注意を払われていて、現場の皆さんのご苦労が伝わってきました。それでは、秋山副部長から訓練内容について詳しく伺いたいと思います。

秋山▶では詳しく。感染症の成立には病原体(agent)、伝播(transmission)、宿主因子(hostfactor)が必要です。感染性対策、宿主対策となると難しいですが、感染経路対策はよりシンプルで確実性が高いといわれています。これらの感染経路を遮断するための有効手段が個人用防護具(PPE)であり、新興感染症等に対応できるためにも、個々の医療従事者がPPEの使用方法を熟知することが重要だと考えています。

今日の防護服着脱トレーニング訓練は、院外の皆さんにも声掛けし、その重要性も十分に理解していただけたと思います。病原体から感染を防ぐには、適切な防護服を使いできるだけ感染経路を断ち病原体曝露防止につなげていくのですが、一口に防



ここが違う！
医大のチーム医療

この日は、本校体育館にて県内医療従事者を招き、訓練を開催。防護服のモデルとなった西山医師の動作手順を綿密に観察する参加者。



専門的なフィードバックが得られる体制を組んでいます。

ありがとうございます。では山岸部長、地域のあらゆる感染対策をけん引する立場としての、これからの展望を聞かせてください。



よく分かりました。当院での訓練の特徴としては、どういうことが挙げられますか。

秋山▶第一に、最新の知見を確認し科学根拠などを踏まえた上で、さまざまな環境下における教育設計を行っていることです。今回の参加者は各施設で感染防止対策に関わっている医療従事者として、職種や年齢等の相違に配慮し学びやすさを第一に考えたプログラムを作成しています。



また、インストラクターも感染症科、救急部の医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員まで充実していますので、質問などにも知識レベルや理解度に合わせて理解してもらえるまで伝えますし、より

機会を設けたいと思います。そして、今後も地域の医療機関や施設、医師会や保健所と連携し、いろいろな感染症に対峙できるように、県内全域で感染対策に取り組んでいく要となって活動していきたいと思えます。

感染管理部 副部長
秋山 祐哉
あきやま ゆうや



山岸▶はい。新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、私たちは、より感染症を身近に感じたと同時に、未知の感染症にも備えておく必要があることも実感しています。日ごろから病院の中や外でみられる様々な感染症では、適切に診断し、適切に治療すると同時に、うつりやすかったり広がりやすい感染症の場合はこれ以上拡大させない対策が必要です。また新しい感染症がいつやってくるかもしれません。そのときに慌てふためかないよう、日ごろからの備えとしてこのような訓練を行っていくことはとても意味があります。今回初めて行った訓練ですが、今後もより改善しながら継続し、多くの皆様にご参加いただ

進化し続ける網膜診療

眼科学講座 教授 **山城 健児**
やましろ けんじ



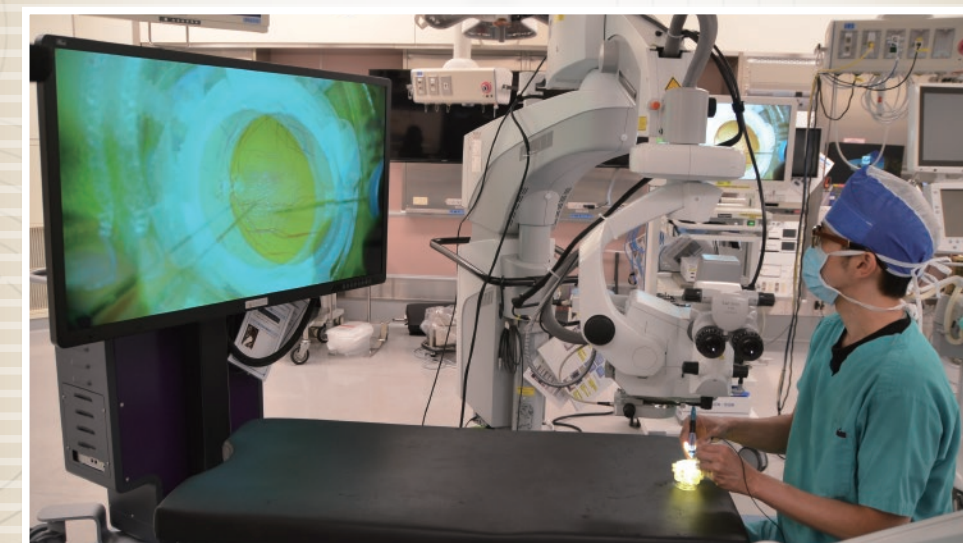
診療の特徴と方針

網膜疾患に対する治療が大きく変わりつつあります。外科的治療では3Dビジュアルシステムが登場し、内科的治療では注射薬の種類が増え続けています。常に新しい情報を取り入れなければ、最先端の眼科診療を行っていくことができない時代になってきました。

眼科の手術は、ほぼ全ての症例で眼科専用の手術顕微鏡を使って行います。今までは手術顕微鏡を直接のぞきこんで手術をする必要がありましたが、最近登場した3Dビジュアルシステムでは手術顕微鏡からの画像を3Dモニタに映して、3Dメガネをかけて立体的な画像を見ながら手術ができるようになりました。この3Dビジュアルシステムを使うと、手術顕微鏡をのぞきこむ必要がなくなるだけでなく、今までの手術顕微鏡と比べて圧倒的に高精度なモニタ画像を見ながら手術を行うことが可能になります。さらに画像にハイダイナミックレンジ(HDR)加工をすることで術野の明るい部分と暗い部分を同時に観察できるようになるために、より安全な手術が可能になりました。さらに最近ではAIを使って画像を鮮明化することもできるようになりつつあり、今後も技術の進歩に伴ってより精度の高い手術が可能になっていくと考えられています。

当科では、この3Dビジュアルシステムはこれからの高精度な眼科手術に必須であると考えており、2022年に導入しました。まだ世界でも3Dビジュアルシステムを使いこなしている施設は限られています。我々の今までの経験から、手術の目的に合わせて設定を変更することで、手術の精度を上げられることが分かっていますので、設定のコツや手術のコツを国内外に伝えていきたいと考えています。

加齢黄斑変性や強度近視、糖尿病網膜症や網膜静脈閉塞症では網膜の中央にある黄斑部が障害されて視力が大幅に低下します。この黄斑部の障害に対して抗VEGF薬が使われ始めたのが2008年です。その後、徐々に新しい抗VEGF薬が開発され、今では5種類の注射薬が使用できるようになりました。それぞれの薬剤が異なった特徴を持っているため、病気の状態に合わせて薬剤を使い分けることで治療の結果が変わってきます。知識と経験が治療結果を左右する時代になってきました。当科にはこの抗VEGF治療のエキスパートが揃っています。今後も国内外の抗VEGF治療をリードしていきたいと考えています。



3Dビジュアルシステムを用いた手術操作

栄養管理部から



のおすすめ料理

年末年始はとびきりお洒落な
ホームパーティーはいかが?



バーニャカウダ風 【チキンのロースト冬野菜添え】

【材料】(1人分)

鶏もも肉……………100g	里芋……………1個
ローズマリー……………1本分	アスパラガス……………1本
塩……………0.5g	玉ねぎ……………15g
コショウ……………少々	エリンギ……………10g
オリーブオイル……………15ml	ゆず……………1/2個(飾り)
赤カブ……………1個	

〈バーニャカウダソース〉

【材料】(1人分)

牛乳……………15ml	アンチョビ……………15g
水……………15ml	バター……………2g
ニンニク……………1片	オリーブオイル……………20ml

【作り方】

◆チキンのロースト冬野菜添え

- ①鶏もも肉は皮に塩コショウをして、ローズマリー1/2本分を散らしてオリーブオイルを回しかけ、30分ほど置きます。
- ②野菜は食べやすくカットして、500Wのレンジで2～3分加熱します。
- ③フライパンに①のオリーブオイルを熱し、①の鶏もも肉を皮目を下にして中火で6分、皮がパリッとするまで焼きます。裏返して弱火で5分、肉に火が通るまで焼きます。②で加熱した野菜も同様にフライパンで焼き色をつけます。
- ④皿に盛り、ローズマリー1/2本とゆずを飾り付ければ完成です。温かいうちにいただきます。

◆バーニャカウダソース

- ①ニンニクの芯を取り除いて耐熱容器に入れ、牛乳と水を注ぎ、ラップをして500Wのレンジで1分加熱します。
- ②粗熱を取った①のニンニク、アンチョビ、バター、オリーブオイルをミキサーにかけ、ペースト状になれば完成です。

私達が
担当しました!



調理師より

バーニャカウダソースはチーズフォンデュに混ぜたり、生クリームで伸ばしてパスタソースにしてもおいしいです。

一言メモ

オリーブオイルに多く含まれるオレイン酸は血中の悪玉コレステロールを減少させる働きや、動脈硬化を予防する効果もあります。また腸の動きを活発にさせるため便秘の解消にも効果的です。エネルギーは1g9kcalとほかの油と変わらないので、取り過ぎには注意しましょう。

栄養量 (1人分)

エネルギー	641kcal
たんぱく質	21g
脂質	54g
炭水化物	14g
塩分	2.9g

調理師
中矢 亮太
なかや りょうた

管理栄養士
久保井 聖代
くぼい まさよ

集中治療部

Intensive Care Unit

部長
河野
かわの

崇
たかし



当院の集中治療部では、大手術後の外科系症例から敗血症ショックなどの内科系症例まで、幅広い重症患者に対応しています。また、救命だけでなく患者さんの社会復帰へ向けてのサポートを多診療科・多職種が連携し取り組んでいます。

集中治療部の体制

当院のICUは12床からなり、年間約1500人の重症患者を受け入れています。このコロナ禍では人工呼吸が必要な重症COVID-19感染患者様の治療にも多く携わってきました。

診療体制は、各診療科と協力しながら常駐麻酔科医が診療のサポートを行うopen ICU policyを採用し、集中治療ケア認定看護師(1名)、急性期重症患者専門看護師(1名)・集中治療業務をサポートする特定看護師(2名)を含む看護師や集中治療室専任の薬剤師・管理栄養士・臨床工学技士・理学療法士とともに昼夜問わず重症症例の対応にあたっています。



特徴と方針

集中治療室に入室した、特に重篤な患者さんの半数は、生存して退院できたとしても1年後に何らかの介護支援が必要とすることが世界的に報告されています。そのため、特に超高齢社会が進む高知県においては、集中治療は生存退院だけを目指すのではなく、退院後の患者さんやそのご家族の「生活の質」を保つことが望まれています。

ICUで行われる毎日の多職種カンファレンスでは、疾患に対する治療だけでなく、退院後の早期の社会復帰を目指すことに重点をおいた議論がなされ、積極的な栄養療法やリハビリテーションを実施しています。またご家族への心理的なサポートやご帰宅後の介護支援の相談などを家族支援専門看護師が行うことで、退院後のスムーズな生活への復帰をご本人・ご家族とともに目指します。

最近では様々な職種のICUスタッフが、早期社会復帰へ向けた研究を行い、新たな治療戦略の確立に向けて日々研鑽を積んでいます。

多くの診療科・スタッフが関わる部門のため、良好なコミュニケーションを心がけ、これからも患者さんやそのご家族の「命」と「生活の質」を守るためのお手伝いができるように取り組んで参ります。

冬のイベント案内 ●2023年1月～3月●

RKCラジオ 「気になる健康 ファミリドクター」

【放送予定日】
毎週月曜日 午前10:35～(8分間)

※放送内容は後日附属病院ホームページに掲載されます。



- 23年1月2日(月) 更年期障害におけるホルモン補充療法 [産科婦人科/橋元 粧子]
- 23年1月9日(月) 骨粗鬆症とその治療法 [整形外科/喜安 克仁]
- 23年1月16日(月) 人工内耳とは? [耳鼻咽喉科・頭頸部外科/小林 泰輔]
- 23年1月23日(月) 手術で治療可能な認知症(CSDH,iNPH) [脳神経外科/竹村 光広]
- 23年1月30日(月) 女性泌尿器科について [泌尿器科/安宅 香弥]
- 23年2月6日(月) 内臓動脈瘤の血管内治療 [放射線診断科/IVRセンター/松本 知博]
- 23年2月13日(月) 顔の骨折 [形成外科/黒木 知明]
- 23年2月20日(月) その風邪、抗生剤いりません! [薬剤部/柳澤 成佳]
- 23年2月27日(月) 急性内斜視 [眼科/杉浦 佳代]
- 23年3月6日(月) 口が渴く→ドライマウス [歯科口腔外科/笹部 衣里]
- 23年3月13日(月) 癌の病期分類 [病理診断科/戸井 慎]
- 23年3月20日(月) 声のリハビリテーション [リハビリテーション部/中平 真矢]
- 23年3月27日(月) 大学病院への上手なかかり方 [総合診療部/武内 世生]

